

地方病院の医師事情 2022.10



日本では、もともと医師不足の状態でしたが、2004年、新医師臨床研修制度が導入されてからは、それまで研修のために大学に集まっていた医師がたずなをはずされたように自由に選んだ研修指定病院で研修を受けられるようになり大学医学部（医局）の医師供給システムが崩壊しました。その根底には日本の医師は自由

業であり働く場所がだれにも束縛されず、自由に選択できるという事情もあります。

専門医制度も地方の医師不足に拍車をかけています。専門医制度は将来専門分野を目指す医師にとって医師が進みたい領域での技能の向上のためには必要な制度です。さらに、専門医でないと仕事が評価されない場合もあり、専門医資格を得るために指導医のいる指定病院に集まるのは当然のことです。地方の中小病院に勤める中堅医師にとっても専門医や指導医の資格を維持することは、医師を集め、病院を維持するためには必要なことです。資格を維持するためには学会参加だけでなく、その分野の症例を一定期間に一定数以上経験することが必要です。地方病院で経験できる症例数は少なく、関連病院に出張して診療に参加するなど、努力はしていますが苦しい状況です。

地方病院では地域医療を守るため、医師招聘のために院長はじめ自治体の首長も一体となって努力しています。そのような中で、医師が赴任してもすぐにやめていくという話が聞かれますが、資格取得が困難な病院での長期勤務ができないのはやむを得ないことです。

医師の居住環境も勤務病院の選択基準になります。交通手段が乏しい、住居が提供できても古い。制度上、病院では食事を提供できない、食事できる店舗も少ないなど、地域で生活する上での魅力も関係しています。

医師は万能ではなく、多くの患者の診療を経験することによって診療技術を高めていきます。患者は教科書であり、多くの患者に出会うことができることも勤務病院を選択する要素となります。

勤務病院で治療が困難な場合は関連病院を紹介し、患者情報提供書のやり取りによっても知識を蓄積します。地方病院の役目は、まずは患者を受け止め、地域完結医療を目指し、それが困難な場合、関連病院と連携しながら最適な医療を提供することと考えます。金山病院では各種専門外来の開設、胆石症やヘルニアの腹腔鏡手術、消化器がんや乳がんの治療などを行い地域を支えるとともに医師にもえらばれる病院維持に努めています。

病院の運営は皆さんが受診されることによって成り立っています。これからも皆さんの病院として努力してまいりますのでご協力をよろしくお願いいたします。